

ARCH プロジェクトの第3回合同訓練に参加しました（2018/12/5）

テーマ：ASEAN 加盟国災害医療対応の標準化にむけて
会場：Dusit Thani Manila（マニラ、フィリピン）

2018年12月5日（水）に災害医学研究部門の江川新一教授がマニラで開催された ASEAN 加盟国による ARCH（災害医療対応能力強化と標準化）プロジェクトの第3回合同訓練に参加しました。ARCH プロジェクトは、災害が頻発する ASEAN 地域において、災害医療対応の標準化をめざして、各国の保健医療対応能力、他のクラスターとの連携、国際医療支援における標準化、災害時の疾病サーベイランスシステムの習熟などを目的として2014年に JICA の支援のもと開始されています。過去に1回のテスト演習、2回の合同訓練を経て、今回3回目（最終訓練）の合同訓練となります。

訓練の第1目標は ASEAN 地域内での災害医療対応の協力体制の確認であり、第2目標は疾患発生情報を電子的に報告し取りまとめるための iSPEED システムの習熟、災害医療対応チーム (Emergency Medical Team: EMT) の指示と管理、協力と調整、情報通信体制の確認になります。

フィリピン政府の全面的な支援を受けて、マニラでの発生確率が高いとされる直下型地震”The Big One”が11月28日に発災したことを想定した訓練が行われました。訓練は12月3日から5日までの3日間開催されました。1日目は、被災国フィリピンの要請を受けた国際医療支援団 (international EMT) がマニラ空港に到着し、通関を含む入国手続き、フィリピン国際人道支援受付センター (PIHARC)、医療支援チーム調整本部 (NEMTCC) への登録、SASOP と呼ばれる標準手続きの実施、支援チームの機能レベル確認などが、税関、セキュリティチェック、検疫など実際の空港職員の協力を得て行われました。さらに、被災地の安全性、被害状況、支援先への派遣調整、iSPEED の使用訓練、通信設備の使用訓練などに関する机上訓練も行われました。2日目は、フィリピン軍の協力を得て、広い演習場で各国が支援テントを展開し、通信、iSPEED 報告などすべての情報を駆使して、被災地や避難所における保健医療支援ドリルを行いました。3日目は、発災から1週間ぐらいを想定して、保健医療クラスターミーティング、政府の災害対策ミーティングの机上訓練を行いました。保健医療支援を終えて、マニラ空港で入国したときとは逆の手順で、保健医療支援の報告書を NEMTCC, PIHARC に提出し、税関、検疫、出国手続きをすることがリアルに行われました。入国・出国の手続き訓練では、国際医療支援チームが実際に経験しがちなストレスイベント（10000 米ドル以上の所持、報告書未提出、発熱性疾患への罹患など）が参加者には知らされずに組み込まれており、空港での手続きそのものに対する備えの重要性が体験されました。

参加は、ASEAN のブルネイ、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン(2 チーム)、シンガポール、タイ、ベトナムの 10 か国と、日本を合わせた 11 か国 12 チームです。また、日本、タイ、フィリピンの災害医療従事者、NGO、JICA、政府組織などからなるタスクフォースが多数参加しています。

このような機会を通して ASEAN 加盟国とわが国の間で、災害医療に対する認識やツール、課題を共有することができ、国際支援のレベルアップとともに、各国の対応能力向上に直結する成果が得られました。災害が多発するアジアに特有な課題とともに、ARCH プロジェクトの今後の継続のためにたゆまぬ努力がなされています。IRIDeS としても教育、研究の面から貢献してまいります。



参加国の国旗をあしらった ARCH プロジェクトのロゴ



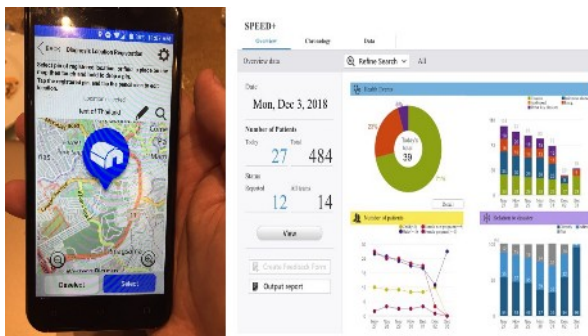
入国時空港での通関、国際医療援助チーム登録のリアルシミュレーションで開始



フィリピン軍のグラウンドを利用したフィールド演習



各国チームによる災害医療対応訓練の様子



医療ニーズ発生状況をリアルタイムで集計できる iSPEED 画面



保健省、WASH、栄養、財務などで情報を共有するヘルスクラスターミーティング



帰国のための出国手続きに必要な参加チームの書類（解決しなくてはならない課題を含む）が入った模擬スーツケース



本当の空港職員による出国前セキュリティチェック、通関、検疫のシミュレーション



参加国ごとの表章：日本の JDR チーム



ASEAN の災害対応に対する決意

文責：江川新一（災害医学研究部門）